

＜今日の説教のポイント 創世記 29 章 31 節～30 章 24 節＞

①神様の御旨を探るために、逃亡者ヤコブに起こったことを追う。

兄エサウを出し抜いて長子の権を奪った狡猾なヤコブ。そのヤコブをなぜ神様がイスラエルの祖とされたのか？ その理由を探るためにヤコブに起こったことを追っています。先入観無しに、ただ聖書を追って行きましょう。そこから見えて来るものから考えるために。

②姉妹レアとラケルの競い合い。哀れ。誰が悪いかわけられない！

ラバンの策略でレアとラケルの二人を妻とすることになったヤコブ。その先に待っていた状態は悲惨でした。姉レアと妹ラケルの壮絶な競い合いが始まったからです。こうなった原因として聖書は、ヤコブがレアを「疎んじ」たこと(29:31)、ラケルの「ねたみ」(30:1)の二つを挙げています。子どもを多く持つことが神様の祝福を多く受けているとする当時の考え方が、その根にあることも考えておく必要があります。愛しても報われない悲しみ(レア)、子どもができず認められない焦り(ラケル)、八つ当たりされるヤコブ(30:1)、三人とも苦しみの中に置かれています。ですから、三人のうちの誰が悪いかと決め付けるようなことはできません。むしろ、三人とも苦しんでいる、三人とも問題がある、三人とも哀れ、そういう思いにさせられます。

③聖書によって示されたもの — 罪の自覚・その赦し・新しい生へ！

こうして見えてきたものに対して、やはり聖書は答えを与えてくれている、イエス・キリストにおいてしっかりと示されていると思います。他者を批判できない自分の罪を深く示されたこと。その罪深い私たちを赦して下さる神様を知らされたこと。子孫繁栄というこの世的幸い(旧約聖書の限界)を超えた「神の国」というゴールを示され、それを目指しつつこの世を生きるために新しい「神の家族」が与えられたこと。ヤコブが苦しみの中に置かれたことは神の罰といった表現で終わるものでなかったことは、この後を読み続けて行くと分かります。私たちの生の全ての営みの中にも、神様の同じ恵みが込められているのです！